

度以後逐年低下してきたが、昭和50年度以降ほぼ一定推移の状況を示している。

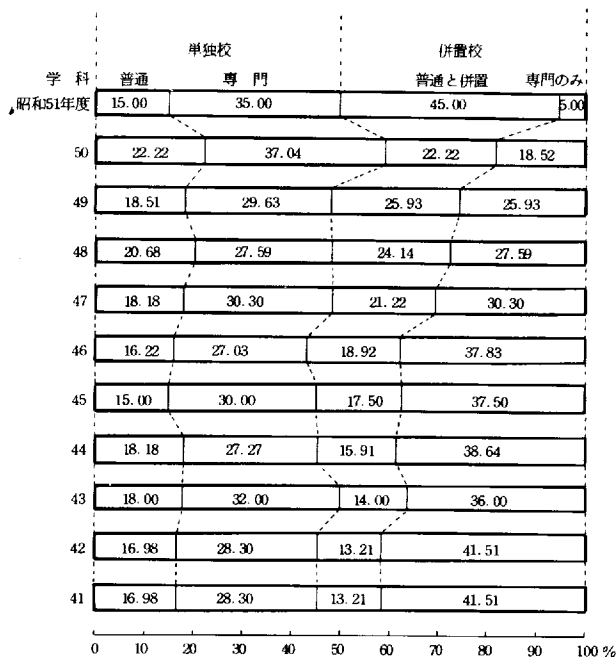
一方、併置校における学科別学校構成比は、普通と専門の併置が昭和41年度 32.29%、昭和46年度32.35%、昭和51年度33.01%とやや上昇の傾向を示し、専門のみが昭和48年度以降ほぼ一定推移の状況を示している（図2-4-12）。

定時制についての学科別学校構成比の推移をみると、単独校の構成比は、全日制の場合と同様に緩やかな上昇傾向を示している。

しかし、その推移過程は、全日制の場合と異なり、年度間の変動も大きく、単独校においては専門教育を主とする学科の学校構成比がやや上昇の傾向にあり、併置校においては普通と専門の併置の学校構成比が急速な上昇傾向を示している（図2-4-13）。

以上を要約すると、全日制高等学校においては、専門教育を主とする学科の学校構成比がほぼ一定推移の状況を示し、定時制高等学校においては、学科別学校構成比の年度間の変動が大きくなってきているといえる。従って、今後は、学科別進学志願者の動態予測に基づき、学科別学校配置を検討する必要がある。

図2-4-13 学科別定時制高等学校構成比の推移



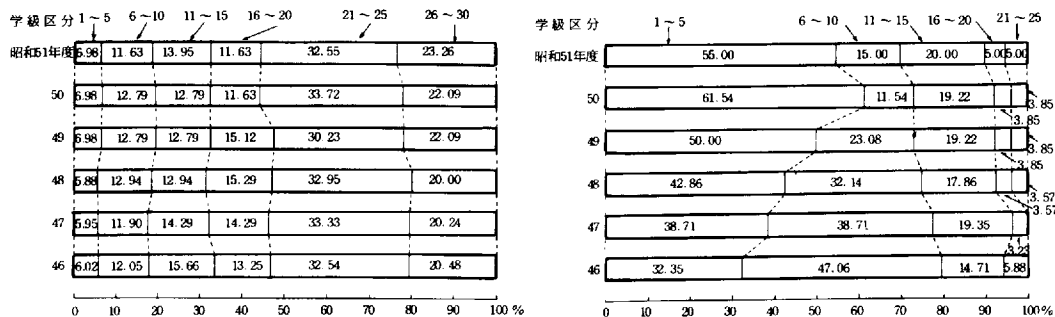
- 注：1. 「学校統計要覧」(昭41～昭51)による。  
 2. 学校構成比=(当該学科学校数)÷(定時制高等学校数)×100  
 3. 学校数は、公立、私立の合計である。

(8) 学校規模

公立高等学校の学級規模別学校数の状況を昭和46年度から昭和51年度までの学級規模別学校構成比の推移からみると、公立全日制高等学校にあつては、21学級

から30学級までの学校の構成比が昭和46年度53.02%、昭和48年度52.95%、昭和51年度 55.81%

図2-4-14 公立全日制学級規模別学校構成比 公立定時制学級規模別学校構成比



- 注：1. 「高等学校教育課調査」(昭和46～昭51)による。  
 2. 学級規模別学校構成比=(当該学級区分学校数)÷(学校総数)×100